

手洗い自動水栓... いつかは... そのうち... とは思っているけれど... それなら今がチャンスです!

※主要原材料費の高騰、物流や人件費等のコスト高騰により現行の価格維持が非常に困難な状態が続いておりました。誠に勝手ながら2026年より新価格を適用いたします。

アメニティの手洗い自動水栓 **せせらぎ V2**

2025年12月末まで 自動水栓せせらぎV2をご注文で 薬用手洗いスタータセット プレゼント

濃縮パウチ500g + 専用希釈ボトル

アメニティネットワーク かわや版

トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN

2025 晩秋号 Vol.117

発行所 株式会社アメニティ 〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685 TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717 Copyright © 2004 AMENITY INC. All rights reserved.

特集 「トイレ診断士」

トイレを守る専門医

9月14日、アメニティネットワーク技能検定協会による「トイレ診断士」の試験が行われました。毎年この時期、アメニティネットワークのスタッフがトイレの“専門医”としての知識と技能を学び、資格取得に挑戦しています。かわや版でも何度かご紹介してきたトイレ診断士ですが、いったいどんな資格なのか——今回は、その中身を改めてご紹介します。

トイレ診断士 第28回

佐藤満春のトイレな話 シーズン2

I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET!

女性トイレの行列問題をどう解決するか

商業施設やショッピングモールなどのトイレが清潔で使いやすくなったのを誰もが体感する一方、女性用トイレにだけ長い列ができる光景は珍しくありません。まず根本的な要因として、男女の利用時間差が挙げられます。統計的に男性の平均利用時間は1~2分程度であるのに対し、女性は2~3倍かかるとされています。その理由は、女性は個室利用率が100%であること、着脱に時間がかかる衣服の影響、小さなお子さんや高齢者の介助が多いことなどです。こうした実態を踏まえ、ビッグデータを用いて数のバランスをとっていくべきでしょう。既に解決への動きは始まっていますが、一旦作った施設の増改築は容易ではなく、「作った後に問題が発覚する」ことは少なくありません。建築設計の現場では「女性側のトイレの数を増やそう」という声の広まり

もあります。「男女平等のトイレ面積」から「利用実態に即した面積配分」への転換が求められ、公共ホールなどでは女性トイレを増やす改修事例が出てきました。しかし、依然として古い建物では改善が追いついていないのが現状です。

また、行列解消には物理的な拡充だけでなく柔軟な運用も必要です。近年は多目的トイレやジェンダーニュートラルトイレの活用が目立っており、ピーク時には女性利用を優先すれば、待ち時間を短縮できます。さらに、ICTを活用した「混雑可視化」や「個室案内システム」も実証が始まっており、利用者が選択的に動ける環境をつくることで、行列集中を防ぐ工夫ができます。

結局のところ、女性トイレの行列問題は「施設整備の遅れ」だけでなく、「社会全体が誰の視点で設計を考えたか」という

文化の問題でもあります。男女の身体的差異や生活背景をきちんと前提に置いたうえで、柔軟な設計と運用を取り入れることが不可欠です。トイレは誰にとっても日常的かつ切実な場です。だからこそ、行列に並ぶ不公平を「仕方ない」で済ませず、快適で公平な空間づくりを社会全体で進めるべきだと考えます。こういった問題が「課題」として考えられるようになったのは、トイレ全体の諸問題が解決しつつあるから、とも言えますね。

トイレ診断士制度の誕生

1990年代、アメニティネットワークでは、全国のトイレメンテナンスを展開する中で、清掃だけでは解決できない課題に直面していました。見た目がきれいでも、臭気や設備の不具合、衛生環境など、目に見えない問題が残ってしまうことが多かったのです。

こうした課題に対応するためには、現場スタッフが共通の知識と判断基準を持ち、的確な改善提案ができる力が必要でした。そこで1997年、社内教育制度として「トイレ診断士」の資格制度が誕生しました。この制度では、トイレの設備や環境を総合的に診断し、施設の特性に応じた改善策を提案する“トイレの専門医”としての知識と技能を身につけることを目指しました。

その後、2003年にはトイレ診断のみを枠組みとした形で厚生労働省の社内検定制度に認定され、社会的にも信頼される資格となりました。

トイレ診断士の講義の様子。受講者は真剣なまなざしで。

トイレ診断士になるには

資格取得には、まずアメニティネットワークでの実務経験が1年以上あることが条件となります。

そのうえで、臭気・換気・照度・湿度などの測定方法や、設備機器の状態の見極め方、汚れの種類の特異性、診断機器の使い方、図面の確認方法、法律的な知識など、実践的な技能を幅広く学びます。

加えて学科試験と実技試験の両方に合格する必要があります。合格者には「トイレ診断士」の称号が付与され、全国の現場で活躍することができます。

現在のトイレ診断士

資格には1級と2級があり、2級では顕在化しているトイレの問題を解決できる基本的な診断技能を、1級では潜在的な問題を含めたより高度な診断技能が求められます。1級の合格率は平均で約38%と狭き門になります。2025年9月現在、1級61名、2級71名、合計132名のトイレ診断士が全国で活躍しています。トイレの清掃や管理を指導することができるトイレクリーンマイスターなどの上級資格もめざしています。

厚生労働省の社内検定制度認定証

合格者へ付与されるIDカード

トイレ診断士1級

山戸伸孝

編集後記

いつも紙面で当たり前のように登場している「トイレ診断士」ですが、「そういえば、トイレ診断士の特集って今まであった?」という読者の声が届き、編集室でもバックナンバーをめくってみたら...ないないんです! あんなに話題にしていたのに、まさかの「初特集」。これはもう、かわや版の盲点でした。というわけで、今回は満を持しての診断士特集。改めてトイレ診断士について知っていただけたら幸いです。(セルベッチオ中嶋)

intomation!

『御手洗銀三物語』が、アメニティネットワークのホームページで連載スタート!

株式会社アメニティの創業者・御手洗銀三(本名:山戸里志)がトイレビジネスを始めてから、今年で50周年。その節目を記念して、これまでの歩みを紐解く物語が始まります。

物語はこちら

あなたの町のアメニティネットワーク

コンナ イイトレ

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

トイレ診断士の現場ツール図鑑

ガス検知管
 特定のガスや化学物質を検知するための器具。トイレでは主にアンモニアの検知に使用します。



内視鏡
 排水管内部など、目視できない箇所の状態を確認するために使用します。



ルミテスター
 清潔度の指標となるATPふき取り検査を行うための機器。見えない汚れを数値で確認できます。



フレックスポンプと臭い袋
 臭気判定士による臭気判定のために、トイレ内の空気採取する専用機器です。



スモークテスター
 トイレ内の空気の流れを可視化し、換気の状態を確認します。



マルチテスター
 風速計・照度計・温湿度計などがセットになった測定器。換気回数や快適性の診断に活用されます。



電子メジャー
 換気回数の計測には、室内の正確な容積の測定が不可欠。そのため距離測定器です。



診断士の厠堂、街に根づく

「トイレ診断士の厠堂」という名前の公衆トイレは、現在、渋谷区役所前と新横浜駅前の2か所に設置されています。いずれも、トイレ診断士の知見を活かして維持管理が行われている施設で、ネーミングライツ契約により命名された“実働型の公共インフラ”です。これらのトイレでは、診断士が定期的に診断や衛生管理を行っており、設備の改善や維持管理につなげることで、利用者の安心と快適性を支えています。



トイレ診断士のリアルボイス

トイレ診断士1級
 アメニティ本部 **森 聡也** ID:11-0103-0186
 トイレ診断士1級取得後は、診断の際に見えない換気扇内部や配管内の問題など、トイレ単体ではなく建屋全体をシステムとして診る視点へと変化して行っています。トイレのコンサルティング的な要素も増え、お客様からはトイレ以外のご相談を受けることも度々です。現場で最も大切にしているのは、誠実であること、お客様の立場や背景に配慮しながら、事象や数値を交えながら客観的に事実を伝えるよう心がけています。これまでに臭気の問題を解決できなかった現場もあり、今でも「どうすればよかったのか?」と考えることがあります。診断士テキストの内容は隅々まで現場で生きており、説明の際には「どの章のどこか」まで思い浮かぶほどです。トイレ診断士を一言で表すなら「トイレの専門医」。まるで「ドクター-X」の大門未知子のような存在です(笑)。



トイレ診断士2級
 CSアメニティ **金子 有里** ID:11-0224-0418
 昨年、診断士2級に合格しました。2級の実技試験では、診断のチェック事項の流れや言葉を覚えるのに苦労しました。講義の合間や練習時間を使って何度も繰り返し練習し、講義後のホテルの部屋でも一人で黙々と復習を重ねることで試験本番もクリアすることができました。そうした経験がその後のトイレ診断の現場でも役立っています。資格を取ったことで自信が付き、具体的に説明できることや対応できることが増え、お客様からもトイレのプロとして信頼されるようになりました。話す内容に説得力が生まれ、現場での対応にも余裕が持てるようになったと感じています。診断士の仕事は「トイレを快適にするプロフェッショナル」。今後はお客様のお困りごとすべてに、期待を超える提案ができる「トイレのプロ」として、より高いレベルを目指していきたいです。



まとめ
 近年では、トイレ診断士の専門性が企業からも高く評価されています。たとえば高速道路のサービスエリアを管理するNEXCO各社では、快適なトイレ環境づくりのために診断士による定期的な診断を導入。その成果が利用者満足度の向上につながり、自社のPR誌でも診断士の活動が紹介されるなど、信頼を得ています。
 こうした取り組みは、トイレ診断士が「見えない快適」を守る専門職として、社会インフラの一端を担っていることの証です。診断士の導入は、衛生管理の質を高めるだけでなく、トイレの快適性が集客や差別化に貢献する「新しい価値づくり」としても注目されています。今後も診断士の視点が公共空間の質を高める基盤となり、誰もが気持ちよく使えるトイレ環境を支える存在として、ますます期待が高まっていくことでしょう。



朝日新聞 「元気のひけつ」 コーナーに掲載

朝日新聞神奈川県版の連載「元気のひけつ」では、地域で活躍する企業の取り組みが紹介されています。2025年10月7日号では、「トイレのプロ集団 株式会社アメニティ」と題し、弊社の活動が取り上げられました。
 記事では、トイレ診断士による臭気・湿度・照度の測定や、内視鏡による排水管の点検など、快適性を守る専門的な診断の様子や診断後の設備状態や改善提案を詳細に記録した報告書を作成し、施設管理者との信頼関係を築いていることについて紹介されました。
 また、ジェンダー平等や災害時の対応など、トイレにまつわる社会的課題を発信する情報誌「かわや版」の取り組みや、トイレにちなんだユニークな「ビジネスネーム」制度、公衆トイレの命名権活用など、アメニティならではの独自の社風と実践も紹介されました。トイレという身近な空間に込められた想いがさまざまな角度から伝えられています。
 こちらから朝日新聞有料会員に登録すると記事全文を読むことができます。



トイレとアートでまちをつなぐ たけにしトイレナーレ2025

Toilet Topics

「トイレ×アート」の可能性を探る芸術祭「たけにしトイレナーレ2025」が、大分市・ガレリア竹町商店街周辺エリアで開催されています。主催は、大分圏清掃整理促進運動会。2015年に開催された「おおいたトイレナーレ」をきっかけに誕生した団体で、以来10年以上にわたり、白衣姿での公衆トイレ清掃パフォーマンスを毎月継続しています。その継続的な取り組みが評価され、2024年には「日本トイレ大賞」、2025年には「サントリー地域文化賞」を受賞しています。
 大分圏清掃整理促進運動会の活動は、「おおいたトイレナーレ」を一過性のイベントに終わらず、地域に根差した

継続的な取り組みへと発展させています。清掃活動は毎日10日に行われており、朝7時に市内の公園や公共施設のトイレ前に集合。ラジオ体操の後、無言で清掃します。
 今回のトイレナーレでは、ガレリア竹町西口にあるテナントビル「ワザワザビル」の2階、洋式トイレブース内にアート作品が展示されています。作品タイトルは「コメババ」。土の神をモチーフに、日本人の主食である米(コメ)が体を養い、排泄物(ババ)となって土に還り、再び稲を育てるといふ、生命の循環を表現しています。トイレという空間でこのテーマに触れることで、日常の行為が自然の営み



会場となったガレリア竹町商店街とワザワザビル(写真右手)

とつながっていることを改めて感じさせてくれます。作品は無料で鑑賞でき、11月末までの会期中には、関連するアートイベントも開催されており、まちの中でアートを楽しむ機会が広がっています。



アーティスト青トンカチによる「コメババ」。「食(コメ)」と「糞(ババ)」をめぐる循環を表現しています。



大分市にゆかりのある芸術家・赤瀬川原平が参加した「ハイレット・センター」が銀座の街頭で白衣をまとい清掃を行ったアートパフォーマンス「首都圏清掃整理促進運動」をオマージュしています。



最新情報はSNSで
 Facebook: <https://www.facebook.com/toilennaleoita>
 Instagram: https://www.instagram.com/toilennale_oita/